

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709566		
法人名	有限会社 はる風		
事業所名	大森ケア・コミュニティー はる風		
所在地	秋田県横手市大森町菅生田245番地226号		
自己評価作成日	平成28年9月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にめぐまれ、四季を感じる事ができます。その環境を活かしながら、活動や行事を通して、一人ひとりが穏やかに安心して生活ができるようにと取り組んでいます。また、近くには病院もあり、協力医院の往診、緊急時の対応等、医療面においても、安心して生活ができる環境にあると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の機能が徐々に低下してきている中で、職員は利用者の思いに寄り添いながら支援できるように努めています。ユニット間で職員同士が連携し、それぞれの利用者を知る努力をしてケアの意識向上にも繋がっています。「はる風だより」には事業報告と共に高齢者の生活に役立つ情報を毎回併せて掲載されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、ミーティング等を通して、理念を共有し、日々のケアに活かしていけるように取り組んでいる。	その人の生活や性格を尊重した支援ができるよう、職員同士が連携してサービス提供することで実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的とはいえませんが、地域の行事などに参加させていただいたり、交流の機会を持てるよう地域とのつながりを意識している。	住宅地ではないため交流が図り難いということはあるが、職場体験の小学生やボランティアの訪問、エリア内のお祭りに参加することで交流の機会をつくり、理念の実践に繋がられるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	広報等にて情報を発信したり、福祉体験、介護実習等の受け入れをおこないながら、少しでも地域への貢献につながっていけるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議のなかで、ホームの現状報告、意見交換をおこない、サービス向上に活かしていけるように努めている。	会議ではその時点での課題について意見交換し、ホームでの対応を報告して理解を深めていただいています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の定期訪問や、事業所の実情、また、制度等での相談、助言などをいただいたりと協力関係を築くように取り組んでいる。	不明点があれば相談し、ケア会議等に参加して情報を得る等、日頃から連携を密にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やミーティング等を通して正しく理解できるように努め、ケアに取り組んでいる。	外部研修で学んだことを伝達して共有し、身体拘束のないケアを実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等への参加や勉強会にて理解を深め、職員間での情報交換、ミーティング等の機会に話しあいながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ活用の必要性がある方はいないが、研修等に参加し、学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安、疑問点など利用者、家族等へ説明をおこない、理解・納得をはかれるように努めている。改定等の際も通知、説明等もおこない理解・納得がはかれるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会等にこられた時など、気軽に話ができる環境づくりに努めている。意見等についてはミーティング等を通じて、職員間に伝えられる機会を設けている。	家族の意向を引き出す努力をされており、介護計画や運営に反映できるよう接し方や伝え方を工夫することを検討されています。利用者からは食事面での要望が多くあり、応じています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等などで意見や提案を聞く機会を設け、運営に関して反映できるように努めている。	職員の意見が言える環境があり、出された提案等が反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスなどの作成、給与等の明確化をおこない、勤務状況などを把握しながら、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修会に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や職場交流などを通じて、交流の機会をつくり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の時など、本人と会話を持ち、会話の中で、困っていること、不安などの思いを聞きながら、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、訪問時などに時間をかけて、困っていること、不安なことなどを聞きながら、関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業を一緒に行ったり、会話をしたり、常に寄り添うような気持ちで、支えあえる関係を気づけるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にも行事などに参加していただいたり、面接時や手紙などで本人の状況を伝えたりしながらコミュニケーションをはかり、家族と共に支えていけるように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、なじみの人、場所に出かけたり、また、来訪していただいたりとの関係が途切れないように支援に努めている。すべての利用者の方に支援できているわけではない。	お盆、正月に外泊したり、通院時に帰宅することによって近所の方と馴染みの関係が継続できている利用者や定期訪問の介護相談員と逢えるのを楽しみにしている利用者もおられます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での共同作業、会話の機会など関わり合いが持てるように支援している。一人ひとりの個性や身体状況も考慮しながら支えあえるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性のあるケースについては、継続的なかわりを持ち、相談や支援に努めるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、職員間でも情報共有し、本人の思いにそのような支援が出来るように努めている。	日々の関わりの中から希望等を聞いたり汲み取るようにして連絡ノートで情報を共有し、両ユニットの職員が連携して対応できるように取り組まれています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞き、情報として共有し、暮らし方、生活環境他、サービス利用の経過等の把握にも努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子観察しながら、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族とも話し合い、意見や要望きき、職員のミーティング等などで、意見等だしあいながら、介護計画を作成するように努めている。	介護計画に沿って記録をされており、職員が意見を出し合って介護計画を作成されているので、アセスメント、モニタリングの仕方を再検討し、職員が介護計画の見直しに更に積極的に関われる体制づくりを期待します。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやミーティング等、職員間の連絡ノートなどを活用しながら、情報の共有をはかり、実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域資源を活用し、安全で豊かな暮らしができるように努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切にしながら、かかりつけ医、歯科医、薬局等と事業所の関係も築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	運営母体である歯科医及び協力医療機関と連携をとり、支援されています。受診結果は毎月報告されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職がないため、病院や協力病院の看護師の方などに相談しながら、個々の利用者が適切な受診等を受けられるようにしえんしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーとの情報交換、相談等、連絡を密にしながら支援できるように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態をみながら、事業所でできることを家族等と話し合い、説明し、家族等やかかりつけ医と話しあいながら、方針を共有するようにしている。	終末期の対応はしておらず、入居時にホームででき得る支援を説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等の作成はおこなっている。研修等への参加などをし、実践力を身につけるように努めているが、個々に不安を持っている部分もある。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の機会を通して、職員が避難誘導できる方法を身につけるように努めている。また、地域の町内会長、民生委員などの方々にも話し合いの機会に協力体制について働きかけおこなっている。	災害時の協力メンバーを地域内に設定しており、訓練に参加していただくことを検討しています。災害時に優れた対応をされた他事業所があり、近日中にその職員を講師に招いた研修に参加することになっています。	様々な災害のパターンを想定し、協力メンバーの具体的な役割分担を決めた訓練を実施すると共に、二次避難場所を確保されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等を通して、一人ひとりの言葉かけや対応について話し合い、支援するように努めている。	その人を不安にさせない、その人に合った言葉遣いをする等、対応に配慮されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるような言葉かけの工夫や自己決定ができるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、希望に添った支援ができるように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や髪型など、本人の希望に添えるよう、家族にも協力していただきながら、本人の希望に添えるように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みなどを把握し、食事の状況を確認しながら、食形態の工夫をしたりしながら支援に努めている。準備や後片付けなど一緒におこなったりしている。	利用者ができることは少なくなってきましたが、ホームの行事で家族と一緒に食事をする機会をつくる等、楽しみに繋げる工夫をされています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分の摂取状況など確認しながら、一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じて口腔ケアの支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表などを活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみながら、言葉かけ、誘導をおこない排泄についての支援をおこなっている。	オムツの利用者はなく、ポータブルトイレを併用しながらトイレで排泄できるよう支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェック表などを活用し、飲食物の工夫など一人ひとりに応じた予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望等にあわせた入浴の支援はできていない。	車椅子の利用者も手すりを使って浴槽に入浴できています。熱め、温め等の希望に対応できるよう順番に工夫しながら対応されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等にて、薬についての理解を深め、服薬の支援や症状等の変化についての確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、行事等やドライブなどの楽しみごと、気分転換等の支援に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力をえながら、外出の支援に努めている。日常的にも戸外にでかけられるような支援に努めているが、すべての方にできているとはいえない。	家族と外出される方やエリア内のお祭りに出かける利用者もありますが、外出は限られた方になっています。	車椅子の利用者も工夫することで外出の機会をつくり、戸外に出てリフレッシュできる支援を期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの持てる力に応じて、支援するように努めている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等は、本人の希望があれば対応するように努めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調整や室内の温度などに配慮し、季節を感じられるような飾りつけなど、居心地よく過ごせるように努めている。	廊下は広く、そこから続く非常口も十分な広さがあります。廊下には随所に休憩できる椅子が置かれています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスなどを置いたりしながら、ひとりでも、利用者同士でも過ごせるように工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族とも相談しながら、使い慣れたものや家族の写真などを飾ったりしながら、居心地よく過ごせるように工夫している。	各居室の家具は転倒防止のための固定がされています。利用者の状態に合わせて持ち物の配置や収納を工夫されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有の場所の確認や整理整頓をしながら、安全な環境づくりに努めている。		